

Ecola

イ・コ・ラ

No.5
発行 2004年6月8日

こんにちは。梅雨の走り？と言われた5月も過ぎ、このイコラがみなさんの手元に届く頃には梅雨も本格的 ☁️ になっているでしょうね。・・・いかがお過ごしですか？

遅ればせながら、新一年生になられた皆さんおめでとうございます！子どもも親も新しい環境に慣れましたか？紀北分会でもこの春、新しい会員さんがどんどん入会され、ついに100名突破～～🎉

親同士の交流を大切に、子供たちが楽しく暮らしていける社会を目指して進んでいきましょう！

さて、今回のイコラ、またまた前号からは期間が空いてしまいましたが、（えっ？いつものコトや～って？）講演会のお話、行事報告などなど盛りだくさんの内容になっていますよ。みなさん美味し～いお茶&ケーキ（お饅頭のほうがイイッテか？）を用意してゆ～っくりお読み下さいね。

ほな、さっそく、いこら！



家族のつどい

2004年2月28日 岩出総合福祉センターにて

今年の家族のつどいは、また少し雰囲気の違いがありましたよ。マクドナルド岩出店からの出張サービスの方々が、パーティーを取りしきってくれました。明るく、やさしいおねえさんたちの雰囲気に、おとなも子どもものんびり癒しのひとときを過ごせたのではないのでしょうか。いろいろなゲーム（景品つりとか輪投げとか）を用意してくれており、しかもすべて魅力的な景品付きなので、おとなも子どももノリノリ「ウ～ン、おとなかな？」。帰りには、両手いっぱいのおみやげにみんなホクホク顔でしたよ。

マクドナルドのみなさん、ありがとうございました。



2003年11月8日

バスツアー



今年のバスツアーは、関西電力さんのご好意で「南港発電所見学&海遊館・周辺」へ出かけることが出来ました。参加者は、親子・お孫さん連れ・お母さん同士などなど・・・で、最終的にはバスの定員一杯になりました。南港発電所では、オール電化のお話や実際に電気が出来るまでの見学をさせて頂き、お土産までも！その後、海遊館へ入ったり、船や観覧車に乗ったり、ショッピングをしたり・・・とそれぞれに楽しみました。ご同行いただいた下原さん初め関西電力の皆さま、とっても楽しい一日をありがとうございました！



県支部総会・合宿キャンプ

8月23&24日

紀南分会担当の15年度は、本州最南端・潮岬青少年の家で開催されました。紀北分会からはボランティアさんとともににぎやかにバスでの参加です！講演会は紀南で行われている音楽療法のお話・・・、その流れで毎度恒例のキャンプファイヤーでも講師の先生が中心になってみんなのりのりでした。そしてなんとと言っても今回の目玉！は、夕食のバーベキュー！ものすごい食欲の子どもたち・・・いえいえ大人もです・・・のお陰で肉はあっという間に無くなり、急ぎでスタッフが買い足しに行っていました。そして子供たちがボランティアさんと合宿に入った後はお待ちかねの懇親会！呑める人も呑めない人もお喋りすればストレス発散ですよ！紀南スタッフのみなさん、楽しい二日間をありがとうございました



料理教室

〈第1回〉 11月26日 13名参加

～メニュー～

エビの揚げ漬け
巻きずし
千種焼き
黒豆
ワケギのねた
お吸い物



人気のメニュー！
皆さんもぜひ作ってみてね！

《千種焼きレシピ》

(材料4人分)

卵 …4個
鶏ミンチ…200g
A) 酒・みりん・うすくち醤油
各大さじ2
砂糖大さじ3
ショウガ汁小さじ1/2
にんじん・きくらげ
各みじん切り大さじ4
さやいんげん…60g
ねぎみじん切り大さじ4
サラダ油

(作り方)

- ① にんじんは熱湯でしんなりするまで茹でてサルにあげる。
- ② いんげんは熱湯に塩少々を入れかために茹でて冷水にとって冷まし水気を拭いてみじん切りにする。
- ③ ボールに鶏ミンチを入れAを加え混ぜ、ほぐした卵・野菜ときくらげを加えて混ぜる。
- ④ 卵焼き器(オーブンに入れていいもの)に油を熱し③の卵液を入れ全体をかき混ぜ200℃に熱したオーブンに入れて約25分焼く。
- ⑤ ④を卵焼き器から取り出して形に切り串を刺す。



〈第2回〉 2月24日 14名参加
参加者の皆さんに感想をいただきました。

～メニュー～

サンマ寿司
昆布巻きずし



- *今回初めて参加させていただき、サンマ寿司、昆布巻きおしなごき教えてもらいました。おいしいお寿司を習い、他のお母さん方と和気あいあい楽しい時間を過ごさせてもらってとても良かったです。家に帰ってから、早速サンマ寿司に挑戦したいと思います。
- *皆と楽しく調理ができました。また参加したいと思います。
- *今回で2回目ですが、おしゃべりしながら料理を覚えて、食べて、楽しいです。材料費も安く、もっと回数を増やしてほしいです。
- *初めて参加させていただき、楽しい数時間を過ごさせていただきました。料理の方も自ら体験し、自分もできるよこびを得ることもできました。お母さん方の明るさにも感動しました。そして、今テレビで紹介されているiHの料理法にもびっくり。使い方を教えていただき、「いいな、いいな」と感じつつ、自分の年代に遠い昔を思い出させるひとときでした。



講演会

紀北分会主催の講演会、今回も素晴らしい内容で、子育てへのアドバイスがいっぱいでした！

「子育てを支える療育」～地域で暮らせる人を育てられる療育・教育を考える～



2003年10月19日、姫路市より宮田広善 Dr. をお招きして行われた講演は、「療育」という意味を改めて考えさせられた内容でした。

先生の考えられている「療育」、それは「障害のある子どもとその家族を援助しようとする全て」。そこには、医療的補助・訓練・保育・福祉制度の利用の援助・親へのカウンセリング・親たちの社会的活動への支援も含まれていきます。

療育の目標は、「障害を治す・改善する」ことではなく、「イエス・ノー」をはっきりと伝える、「何をしたいか」をまわりに伝えられる、周りの人たちと「うまく折り合える」・・・そんな能力を伸ばすこと。そして求めるものは「自分自身が望む人生を豊かに送ること」。

とても当たり前のことなのにお話をお聞きしていて、時に子育ての中で「障害があること」が大きくなりすぎて、子どもの本来伸ばすべき力を忘れてしまっはなかつたか？・・・と自問しました。

終了に際し、津田会長が「こんなに子供たちの事を思っ下さっての講演は初めてです」と、涙を浮かべて挨拶されましたが、本当に素敵なお話でした。



「自閉症児の就学について考える」 ～事例をとおして～

2004年2月23日、子ども障害者相談センターにて、精神科医・宮本聡先生の講演会がおこなわれました。テーマが「自閉症児の就学を考える～事例を通して～」ということもあり、特に就学前後のお子さんを持つお母さま方が大勢（100名余り）参加されていました。

宮本先生は、現在フリー・ドクターという立場で田辺、西牟婁郡中心に活動されています。この講演では、子どもたちが就学時や就学後に会うさまざまな困難を紹介しながら、学校環境に現存する問題点の数々を提示、さらに、個人として子どもにどう向かうのか、学校などにどう働きかけていけばよいのかなどについていろいろな視点を与えてくださったと思います。

先生の気さくで親しみやすい雰囲気と、明瞭な語り口に、すっかりファンが増えたのではないのでしょうか。自閉症協会では、日頃、相談役としてたいへんお世話になっておりますが、これからもあつ～いお付き合いをよろしくお願い致します。





支援センターに向けての講演会

講師を囲んで



御前 節子

年明け間もない1月17日〔土〕、ビッグ愛にて和歌山障害児・者指導方法研究会主催による講演会が行われました。講師は、今、全国的に注目を浴びている中のひとつ、佐賀県自閉症・発達障害支援センター“結”の田中正哉センター長さんでした。

参加者は、県内の指導者(教諭、作業療法士、施設職員、他)や保護者で、紀北分会会員の5名が受講しました。

センター“結”は、佐賀県より、もうすでにあった社会福祉法人あさひ会(知的障害者更正施設 朝日山学園)が受託し、平成15年4月に附置開設したものだそうです。他府県の自閉症・発達障害支援センターでは、アスペルガーや高機能自閉症の利用者が多いと伺っていますが、センター“結”の利用状況が他と違っているのは、佐賀県では、「それいゆ」相談センターが、アスペルガーや高機能自閉症の支援をしっかりとされているからでしょうか。それから、地域ボランティアの活用も年間1500人とお聞きし、田中センター長さんのお人柄が人を呼んでいるところがあるのでしょうか。

ある教諭は、話の中の「支援センターのスタッフとして」について、次の3点に共感させられたとおっしゃっていました。

- * できないことがあっても困らない社会にしていく事が目標である。
- * 日々の取り組みで困っているのは誰かをまず捕らえ、障害特性に合わせて手立てを考える。
- * 利用者の望む自立スタイルを考える事が大切である。

お話の内容は、全て必要で大切な事ばかりでしたが、私の印象に残ったのは、センターをはじめる時に押さえておく点として、

- * 基本的に相談室、検査療育室、事務所等の要件がそろう事が大切。(自前で)
- * 福祉的な要素の強いセンターなのですが、希望者は学校との連携が不可欠な方が多いので、福祉と県教育委員会と協議を重ねる必要がある。
- * 教育委員会と上手く連携が取れると、その後の巡回相談がやりやすくなる。
- * あくまでサポート機関として、という基本姿勢が大切。

があげられます。

4項目目からも伝わるように“いい人間関係”を重要視されている田中センター長さんは、ユーモラスで、とっても心の広い方だなと感じました。さぞかしセンター内は、ライトアップされホットな雰囲気なんでしょうネ。

この講演後は、和歌山県自閉症・発達障害支援センターへの期待が、ますます膨れ上がってきた私でした。

岡先生のワンポイントアドバイス④

「特別支援教育と自閉症教育」

附属養護学校 岡 潔



障害児教育において養護学校義務制以来の大きな変革期を迎えようとしています。文部科学省が実施した調査で、LD、ADHD、高機能自閉症等の軽度発達障害のある子どもが、義務教育対象の子どもの約6.3%にのぼるという結果が出ました。従来、特殊教育の対象だった盲・聾・養護学校及び特殊学級に在籍する子どもが全体の約1.5%を占めていますので、義務教育の中で障害のある子が一割近くになります。そこで、障害児教育の対象が軽度発達障害も含めて「特別支援教育」という枠組みに転換されることになりました。

ここで誤解しないようにしなければいけないことは、特別支援教育＝軽度発達障害のための教育、ではないということです。確かに、これまで軽度発達障害の定義が明らかでなく、早期発見、早期療育や適切な指導態勢が不十分だった点は誰もが認めるところです。今後は、小・中学校でも学校全体で組織的に取り組む校内支援体制を整えていくことや教員の専門性を高めていくことで随分改善されていくと考えられます。

それでは、特別支援教育への転換により、自閉症児については何のメリットがあるのだろうかと考えてみることにしましょう。自閉症児への教育的対応は、視覚支援など有効な手段はあるものの画一的な指導はなく、今なお現場の手探り状態であることは否めません。今年度より、国立久里浜養護学校が自閉症専門の養護学校として生まれ変わりますが、特別支援教育では障害種別にとらわれない学校づくりをと打ち出しているながら、自閉症についてだけは未知な部分が多く研究の余地があるということではないでしょうか。自閉症教育は、

個人のニーズへの対応が強調されます。周囲が何を望むかよりも本人のニーズが最優先されなければならないと思っています。例えば、自閉症児のこだわりの一つに場所へのこだわりがあります。小・中学校では、普通教室から特別支援教室への往来が予想されますので、本人がしっかり見通しをもてるように支援が必要でありましょうし、周囲のナチュラルサポートが得られるように多くの配慮も必要になってくるでしょう。また、自閉症児が安心できる場もきちんと確保しておいてあげる必要もありますよね。

養護学校では何が変わるのでしょうか。在籍する子ども達には変化がありませんが、養護学校としては、地域の特別支援教育のセンター的役割を担います。教員一人一人が、今までの実践を活かして地域に還元していく役割を果たさなくてはなりません。すでに、特別支援教育コーディネーターとして地域との調整役や学校の窓口となり走り回っておられる教員もいます。養護学校の教育相談もますますニーズが高まってくることと思います。また、養護学校が核になって地域の中で質の高い教育支援ネットワーク（福祉、医療、労働等との連携）を構築していくことも必要となってくるでしょう。自閉症児は熱血指導だけでは生活力は定着しません。援助や声かけを少しずつ減らす工夫をし、子どもの自立を目指せる指導を行っていかなくてはなりません。また、その支援は担任が変わっても途切れずに一貫性が保てるよう情報をつないでいく必要もあると思います。課題は多いが前向きに進むのみです。

NHK ハートフォーラム京都 に参加して

今回は近畿ブロックのスタッフとしての参加の為、内山先生の講演は後半部分が聴講出来ず残念でしたが、薬物治験で**真薬より偽薬に効果**が現れた話や治療効果の**判定の難しさ**の話からは「こうすればこうなる」の図式には当てはまらない子育ては、自閉症とて同じ（^^；と改めて感じました。

そして今回私が一番聴きたかった本人発表・・・佐々木加奈さんは、「FreestyleA&L」関西成人自閉圏の**自助グループ**の代表をされています。幼少の頃から家族を含む**周囲の人との間に違和感**を持ち、ご自分で「のび太・ジャイアン症候群1」を読んでAD/HDと疑い、2001年に「自閉症スペクトラムADHD」と診断されています。

小さい頃の思い出として、「**小学校は猿の惑星**だった。」「給食は家のご飯と違う味で食べるのが辛かった。」「体育の授業での球技は誰に投げて良いか分からないし、同じクラスなのに敵味方に分かれるのが分からない。」「水泳・ダンスはOK・・・一人ですればいいから・・・でもスイミングスクールに通いだして人と違うことが分かった。」・・・などなど。そして、「人と違うと自分で分かったとき（すなわち「猿の惑星」の中に居た時）、**障害告知**をして欲しかった。」とおっしゃっていました。**まわりと違う事で悩み**、「生きている価値がない」と悩み続けたと・・・。

けれど、自己認知には**フォロー**が必要で、「～特性あるんだけど一緒にやっけて行こうね～」と支援してくれる人、そして何よりも同じ自閉圏の仲間と出会う事が一番必要だとおっしゃっていたのが心に残りました。「自分の通訳・コーディネーターが欲しい」「将来を考えたとき一般の老人ホームでは他の人と合わせて生活していけない」など、悩みも訴えていらっやいました。30歳の彼女は今“ダーリン”（お付き合いしている彼）がおられます。「明日はデート」とウキウキされていました（^^）

高機能の人のお話をきいて、「自閉症」そのものの障害特性がはっきりと見えたように思いました。そして、彼らはもしかしたら、知的障害を伴う人以上に社会で生活していくことの**困難が多い**のではないだろうか？・・・自閉圏の方への理解・支援を改めて考えさせられた講演でした。（辻野）

つながり文化祭 バザー

つながり文化祭に娘と出かけました。

いろんな障害児者団体のお店、各養護学校の生徒たちで出しているお店・出展物・・・に目移りしながら進んでいくと、一番奥のコーナーに我らが「日本自閉症協会」の旗が・・・！元気なお母さん＆お父さんの呼び声の前にはたくさんの**バザー品**が目いっぱい並べられていました。

毎年バザーを担当してくださっているスタッフはみなさん売るのも上手、品物＆お金の受け渡しも慣れたもの！そして、大変なはずなのにとても楽しそう・・・！

『つながり』に『会として』参加する大切さはもちろんの事ですが、みんなでひとつの事をする**楽しさや充実感**を改めて感じたひとときでした。

つながり文化祭・バザー出店用の物品を募集しています！
食器・日用品・洗剤 etc・・・
いつでも結構ですので、花井さんもしくは事務局までお願いします。m()m

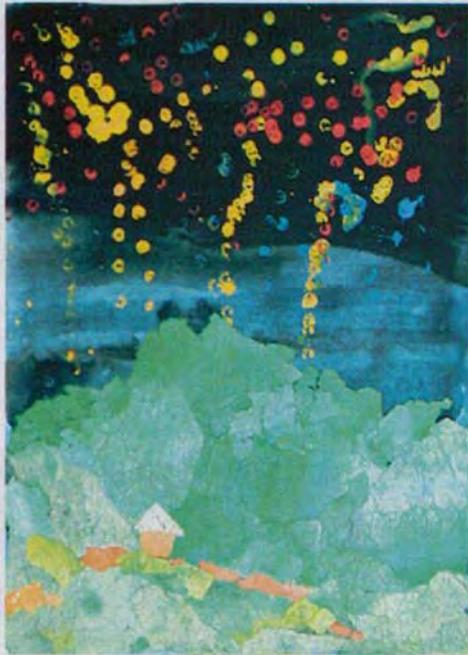


梅の花賞



前号でお知らせしました『田辺絵画教室』に通っている津田君が（紀州・山の日記念作品コンクール）で見事！梅の花賞に輝きました！！

カラーでお見せ出来ないのが残念ですが、黄色・ピンクブルー・緑など心癒される、穏やかな気持ちになれる素敵なお作品です。チー君、おめでとう！



和歌山大学附属養護学校
高等部1年 津田千大

～イコラからのお願い～

- * イコラでは常時みなさんからの原稿を募集しています。行事の感想・日常の出来事・学校での対応について等、何でも結構ですのでどしどしイコラスタッフにお伝え下さい。また、こんな特集をしてほしい！等の提案もお待ちしています！

事務局からの
お知らせ

会員さんも100名を突破し、事務局も嬉しい悲鳴～を上げています！
それぞれの子どもの障害特性・年齢に応じたニーズに少しでも応えられるように活動を考えていければと思いますので、ご意見、そしてご協力よろしく
お願いいたします。 (事務局) 辻野 知津 ..

編集後記： 今回、本格的にイコラの編集をお手伝いさせていただいて痛感しました。・・・“パソコン使いこなせたらなあ”・・・。次回からは、戦力になれるようにがんばります。それから、パソコンに強い人、いっしょにイコラを作りませんか？お待ちしております～す♪ (佐々木)

編集スタッフ： 津田弘美 藤原昌子 辻野知津 佐々木峰子 植野比呂美
《発行》イコラ編集局（連絡先）植野比呂美

- ♣ イコラNo.5のWeb版も出しています。絵や写真などカラーで見られるので、ぜひごらんになってください。また、創刊号からのバックナンバーも（残念ながらほとんど白黒ですが）入れています。早くもなつかしい♪